

ガラス張り公開市長室で

意見続々!

市民との対話が総社を変える

7月4日から30日まで、市内6会場でガラス張り公開市長室を開催しました。全体で延べ約840人が参加。66件のご意見やご提言をいただきました。参加していただきました皆さん、ありがとうございます。いただいた意見はできる限り市政運営に取り入れ、可能なものから実現し、市民と行政の対話の場となるガラス張り公開市長室を、有意義なものにしていきたいと考えます。

一つ上になるための
総社流政策を説明

今回のガラス張り公開市長室は、「総社市再生」をテーマに市政の報告が行われました。はじめに市の現状について、人口の推移や財政状況、新築家屋数などの数値を公表。他市との比較や傾向を示しました。市全体の人口や出生数は増加傾向。財政面も健全化に向けて取り組んでいる結果、市の借金は減り、貯金が増え

ていると報告しました。政策面では、「セカンドステージへ」と題し、さらに上の段階へステップアップするための総社流政策を説明。地域の自立や行政のスリム化を目指す一括交付金制度や、雇用や税収の増加が見込まれている企業誘致・立地の進展、英語特区による人口減少地域の教育政策などへの理解を求めました。また、今年度の部長マニフェストを、目標数値とともに紹介しました。

最も意見が多かったのは
一括交付金

市政の報告に引き続き行われた意見交換では、参加者からの質問や要望、提言に、市長や幹部職員が答えました。意見交換でいただいた意見などの数は、6会場合わせて66件。分野別で最も多かったのは、一括交付金や地域活動に対する補助金などのまちづくり支援関係で、10件ありました。



東公民館でのガラス張り公開市長室。地区住民ら約100人が参加した



1



2



3



5



4

各会場で意見を述べる市民と市長
①山手公民館 (7/4) ②東公民館 (7/23) ③総合福祉センター (7/30) ④清音公民館 (7/18) ⑤市民からの熱のこもった意見に答える市長

一括交付金制度についての意見は、ほとんどの会場で出されました。主な内容は、「地域住民への説明や広報が足りない。周知できていない」「市がサポート

する体制をつくってほしい」など。これらの意見に対し担当の長江市民環境部長は、きめ細かに住民説明会や広報紙、市ホームページでの情報提供をし、理解を深めたいと答弁。また、「できる限りのサポートをしていきますので、なんでも相談してください」と呼び掛けました。そのほかの分野で多かったのは、道路や橋、河川の整備に関するものが7件、農業関連施設が5件、子育て支援、生活交通などがいずれも4件となっています。

各会場のさまざま意見

山手公民館では、「山手・清音両支所の機能を見直し、経費を削減してはどうか」との意見が出されました。市長は、「合併10年を迎え地方交付税が減っているなか、行政改革に取り組まなければならぬ。山手・清音地域の皆さんの意見を聞きながら、支所機能をどうするか」の議論を始めた。

西公民館では、「幼稚園児の減少を抑えるための手立てを考えてほしい」との意見に市長は、「子どもの数に応じて柔軟に形を変えていこう」と思っている。認定こども園などの議論もこれからやっていく。保育・教育の質を上げる努力をしていきます」と答えました。そのほか、昭和公民館では、学区外から昭和地区にある英語特区の校園に通う、子どもの通学問題が取り上げられ、雪舟くんの利用方法の見直しを含め、検討していくこととされました。清音公民館では、学校給食での総社産野菜の使用状況を尋ねる質問があり、平成25年度の使用率は重量ベースで32.1%であると



6



7

各会場で意見を述べる市民
⑥昭和公民館 (7/16) ⑦西公民館 (7/11)